

# JAPIC NEWS

# 5

2011 | No.325

財団法人 日本医薬情報センター **JAPIC**  
Japan Pharmaceutical Information Center



【ハウロクシギ】  
Far Eastern Curlew

全長53～66cm。ユーラシア大陸極東部で繁殖し、冬季は東南アジアやオーストラリア大陸に渡る。日本では旅鳥として、春や秋に全国の海岸や入江等の湿地で見ることができる。オス・メスともに、全体が淡褐色で黒褐色の斑を持ち、頭長の3倍程あるくちばしを泥の中に差し込んで、ゴカイやカニ類を食べる。「ホーイーーン」と太く濁った声で鳴く。

## Contents

### ■巻頭言

「妻が嫌っていたアメリカ旅行」 日本製薬団体連合会 常務理事 高橋 千代美 …… 2

### ■インフォメーション

新刊案内「成分から調べる医薬品副作用報告一覧」5月発刊! …… 4

医療用医薬品「承認品目全データ」の提供 …… 4

発行しました

◎「医薬品製造承認品目一覧」2011年版 …… 4

◎JAPIC医療用・一般用医薬品集インストール版2011年4月版 …… 4

◎JAPIC OTC医薬品CD-ROM 2011年4月版 …… 4

### ■トピックス

「理事会」「評議員会」の概要報告 …… 5

第39回JAPIC医薬情報講座を終えて …… 6

参加記「災害対策と医薬品安全対策に共通性」 埼玉県保健医療部薬務課 松垣 理恵子 …… 6

サノフィ・アベンティス株式会社 メディカル・アフェアズ本部 浅野 寛実 …… 7

### ■コラム

薬剤師の現場「在宅医療にとつての薬剤師 -地域で頼られる薬剤師に」

浜松市薬剤師会 理事・薬局フォーリア 曾布川 美登理 …… 8

しごと百景「入社4年目を迎えて」 株式会社三和化学研究所 安全情報管理部 田渕 理 …… 10

会員の声「JAPIC医薬情報スタッフの方々に感謝」

共立製薬株式会社 医薬本部医薬開発部 菊池 昌弘 …… 12

JAPIC新入職員紹介 …… 13

外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より-(抜粋) …… 14

■図書館だよりNo.251 ■情報提供一覧 …… 15

## 妻が嫌っていたアメリカ旅行

日本製薬団体連合会 常務理事  
高橋 千代美 (Takahashi Chiyomi)



妻はヨーロッパ旅行が好きです。アメリカも旅行するには面白いところだと再三にわたって勧めていたのですが、治安が悪いと思っているからか、美味しい食べ物がないと思っているせいか、どうしても行こうとしません。昨年春、オランダ、ベルギー、ルクセンブルグに旅行した後、今度はアメリカにしようかと誘ったところ、行っても良いとの答えでした。アメリカ、特にニューヨークはいつ行ってもワクワクする所だと、ずっと私が言い続けてきたのが効いたのか、昨年還暦を迎えることでこの際アメリカに行ってみようと思ったのか分かりませんが、10月末、「ボストン、ニューヨーク、ワシントン 東海岸3大都市周遊8日間」の旅行に出かけました。

アメリカ旅行中、今までヨーロッパ旅行では味わったことのない経験をしたのです。

それは、初日の成田空港から始まりました。朝8時半に空港待ち合わせ場所に行き、添乗員からの説明を受け、搭乗手続きを行うため航空会社のカウンターに行きました。シカゴ経由ボストン行きの搭乗券を受け取ろうとしたところ、私は、成田からシカゴまでとシカゴからボストンまでの搭乗券を受け取ったのですが、妻は成田からシカゴまでの搭乗券しか受け取れませんでした。妻は不機嫌になり、カウンターの担当者に理由を聞いたのですが、「よく分からない」との回答でした。

「シカゴからボストンまでの搭乗はOKになっているので、シカゴのカウンターで発券手続きを行ってください」とのことでした。何か変だなと思っていたのですが、案の定、成田空港で、飛行機へ搭乗するため、機械に搭乗券を差し入れたところ、妻の搭乗券ははじかれ、警備員が近寄ってきました。ボディチェックが行われたのです。機械によるボディチェックではなく、女性の警備員が素手で身体をチェックしたのです。あとで、分かったことですが、アメリカでは麻薬等を見つけるには、機械よりも素手でのボディチェックの方が発見しやすいとの事で、このような方法を取り入れ、日本でも同じ方法でのボディチェックを行うことにした矢先であったらしいのです。また、シカゴからボストンまでの搭乗券が出なかったことも、このボディチェックと連動しており、アメリカに入国する人の、ある一定確率でボディチェックをするようアメリカ政府と各航空会社とで取り決められていたようです。妻はそれに当たってしまったようでした。おおよそ何万人に1人の確率だろうと思われませんが、見ようによっては大変ラッキーであったとも考えられます。妻は素手でのボディチェックを受けたこととビジネスクラスの搭乗者なのになぜという気持ちからか、泣き出し、アメリカには行きたくないと言う始末でした。何とか説き伏せて、飛行機に乗ったのですが、その後もシカゴに着くまでずっと泣き続けておりました。

次に事件は、ニューヨークからワシントンへ移動した時、起きました。ニューヨークからワシントンへは大陸横断鉄道、アムトラックで、3時間半の移動でした。朝10時過ぎの出発ということで、ニューヨーク市内で和食のお弁当を仕入れ、車内で食べることになりました。どうもそのお弁当に問題があったようです。ワシントンに着いて、アーリントン墓地のJ・Fケネディのお墓まで行く途中、ツアー客の1人が突然倒れてしまいました。お腹の具合が悪く、トイレに行きたいのを我慢したせいだとの事でした。その夜は、近く中華料理店で油の強い料理が出て、多くの方は、あまり食べなかったのですが、その日の夜から具合が悪くなる方が多く出て、3人ほど近くの病院で診察してもらうくらいでした。病院への支払いについては、保険をかけていた人は、保険で支払われるそうですが、入っていなかった人は数十万円に及んだそうです。そう言う私も、精神的なのか物理的なのか分かりませんが、ワシントンのホテルについた頃から、気持ちが悪くなり、お腹を壊してしまいました。翌朝、お昼、夜と何も食べられず、博物館も集中して見られませんでした。

一方、妻はすこぶる元気で、食事もしっかり取っていました。ニューヨークからワシントンまでのお弁当ランチについては、アムトラック内で席が一緒になったお医者さんの夫婦と取りました。夫婦4人はビールを飲みながら同じようにお弁当を食べたのですが、お医者さんの奥さんと私が体調を崩し、お医者さんと妻は大丈夫でした。あとから分かったのですが、お医者さんは予防的に抗生物質を飲んでいたとの事でした。博物館にバスで向かう間、旅行会社の現地のスタッフから、お弁当のおかずでどれを食べてどれを食べなかったかの調査が行われたのですが、結果としては、予想通り、どのおかずにも問題があったか特定できなかったようです。

翌朝は、もう日本に帰る日で、全員一緒に帰れるかどうか心配でしたが、病院に行った方も含め辛い症状が一段落したので、一緒に帰ることができましたが、今まで経験したことのない、しかも、アメリカ旅行で、食中毒(?)にあおうとは思いませんでした。

今回のアメリカ旅行で反省したことが2つあります。1つは無理に行きたくないところに旅行する必要はないということです。空港でのボディーチェックにしろ、食中毒にしろ、アメリカに行かなければ経験しない事かも知れません。また、2つ目は、クレジットカードでの保険の内容を確認して必要により保険に入らないといけないということです。今までは、クレジットカードで旅行費用を支払うことで、ある程度の保険が掛かっていると考えていたので、新たに保険には入らなかったのですが、食中毒等で病院に行った場合の費用等が保険でカバーされているか等、しっかり確認して、カバーされていない場合は、保険に入る必要があると感じました。

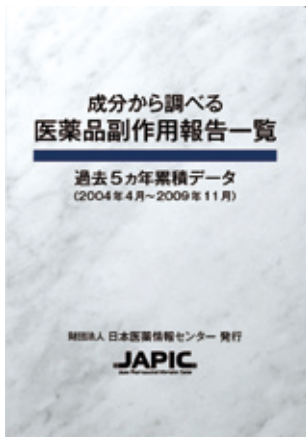
また、今回は旅行会社の対応にも問題があると思います。参加者24人全員がビジネスクラスでのアメリカ旅行であるにもかかわらず、食中毒を起こすようなランチを提供したり、賠償としては具合が悪くなった人のみ、3万円のお見舞いを支払うことで済ましてしまったことです。おかげで妻はお見舞金を受け取れませんでした。少し具合が悪いとでも言っておけば良かったのに、あとの祭りでした。旅行中の精神的苦労等考えれば全員に支払っても良いと思いますが、どうでしょうか。旅行会社もよく調査し、選ぶことが大切と強く感じました。



アメリカ旅行中 [ニューヨークにて]  
(前列：筆者夫妻 後列：元同僚)



## 新刊案内 「成分から調べる医薬品副作用報告一覧」 5月発刊!



本書はPMDAの医薬品医療機器情報提供ホームページにおいて公開されている“副作用が疑われる症例報告に関する情報”のうち、2004年4月～2009年11月分について、第一被疑薬のみを対象とし、有効成分（JAPIC医療用医薬品集における医薬品項目）ごとに集計・一覧表としたものです。有効成分ごとの集計結果は有害事象発現件数の多い順に掲載し、発現件数について%を掲載しました。参考情報として、該当医薬品の2010年1月時点の効能効果、及び重大な副作用にある有害事象を併せて掲載しました。

PMDA公開の“副作用が疑われる症例報告に関する情報”はいわゆる医薬品の副作用と確定したものの報告ではなく、あくまでも“疑われる”ものの報告です。従いまして、本書に記載している情報はいわゆる副作用の発生頻度と異なるものではありませんが、医薬品投与後に発生するかもしれない有害事象への予見の一助としてご活用頂ければと思います、発刊した次第です。

■体裁：A5判 約600ページ ■価格：9,450円（税込）

## 医療用医薬品「承認品目全データ」の提供

承認品目、承認年月日、承認申請時の会社名がひと目でわかる医薬品の製造（輸入）承認データをご提供いたします。データは1931年～2010年12月までの80年間の医療用医薬品を対象としています。

■データ形式：カンマ区切りテキストデータ（csv）

■価格：会員：31,500円（税込） 非会員：52,500円（税込） ■お申込（TEL：0120-181-276）

## 発行しました

### ◎「医薬品製造承認品目一覧」2011年版

JAPICでは厚生労働省から日本製薬団体連合会を通じて医薬品の製造承認資料を入手し、データベース「SHOUNIN」として公開しています。更に1年分をまとめて冊子としたのが本書であり、厚生労働大臣の承認に係る医薬品（2010年1月から12月までの承認分）を掲載しております。医療用、一般用別に、それぞれ商品名の五十音順で配列しております。購入ご希望の方は、FAX（0120-181-461）にてお申込み下さい。

◇価格：会員：10,500円/1部（税込） 非会員：21,000円/1部（税込）

### ◎JAPIC医療用・一般用医薬品集インストール版2011年4月版

◇医療用および一般用医薬品の添付文書情報（2011年3月までのJAPIC入手分）を収録したWindows対応CD-ROM

◇医療用医薬品データの検索・表示・印刷・テキストデータ出力が可能

◇インターネット環境のない薬剤モニタリング業務等にも最適です！

◇価格：単品15,000円（税込） 年間セット4枚（4月・7月・10月・1月）25,000円（税込）



### ◎JAPIC OTC医薬品CD-ROM 2011年4月版



◇一般用医薬品（一部の医薬部外品含む）の添付文書記載情報（2011年3月までのJAPIC入手分）を収録したWindows対応CD-ROM

◇一般用医薬品データの検索・表示・印刷・テキストデータ出力が可能

◇検索項目は、成分名、添加物、リスク区分や小児に使える医薬品等

◇価格：単品3,150円（税込） 年間セット4枚（4月・7月・10月・1月）10,500円（税込）

## 「理事会」「評議員会」の概要報告

3月14日（月）に平成22年度第2回評議員会、16日（水）に平成22年度第3回理事会の開催を予定しておりましたが、3月11日（金）に発生しました東日本大震災および東京電力の計画停電等による鉄道運休等の影響により、開催することが困難となりましたので、寄附行為第33条の定めに従い、書面による表決権の行使をもって、理事会および評議員会の審議を行うこととなりました。議題と主な内容は以下のとおりであり、すべて原案どおり書面表決参加者全員の賛意が得られ、承認・議決されました。今回の主な議題でありました第四期中期3ヵ年計画（平成23年度～25年度）および平成23年度事業計画・収支予算についても承認議決されましたので、会員の皆様にご参考させていただくため、事業計画を先般ご送付いたしました。なお、役員の異動について、下記のとおりお知らせいたします。

### ○「平成22年度第2回（通算第29回）評議員会」

書面送付日：3月14日（月） 議決締切日：3月22日（火）

#### 《議題》

1. 理事・監事の選任について
2. 平成22年度事業報告及び収支状況報告について
3. 平成22年度収支予算の補正（案）について
4. 第四期中期3ヵ年計画（案）及び平成23年度事業計画（案）について
5. 平成23年度収支予算（案）について
6. 一般財団法人への移行に関する
  - (1) 定款（案）について
  - (2) 最初の評議員の選任方法（案）について

### ○「平成22年度第3回（通算第117回）理事会」

書面送付日：3月15日（火） 議決締切日：3月24日（木）

#### 《議題》

1. 維持会員の異動承認について
2. 平成22年度事業報告及び収支状況報告について
3. 平成22年度収支予算の補正（案）について
4. 第四期中期3ヵ年計画（案）及び平成23年度事業計画（案）について
5. 平成23年度収支予算（案）について
6. 一般財団法人への移行に関する
  - (1) 定款（案）について
  - (2) 最初の評議員の選任方法（案）について

### 【役員の異動】

《理事》 退任：小林 英夫（アステラス製薬株式会社営業本部DIセンター 専任理事）

：森田 清（第一三共株式会社相談役）

：横山 雄一（前大日本住友製薬株式会社取締役常務執行役員信頼性保証本部長）  
以上 3月14日付

新任：藤井 善博（アステラス製薬株式会社営業本部DIセンター長）

：長野 明（第一三共株式会社専務執行役員）

：古谷 泰治（大日本住友製薬株式会社常務執行役員信頼性保証本部長）

以上 3月15日付

《監事》 新任：籠橋 雄二（鳥居薬品株式会社常務取締役）

以上 3月15日付

（※敬称略）

## 第39回JAPIC医薬情報講座を終えて

3月8日(火)9日(水)に長井記念ホールで第39回JAPIC医薬情報講座を開催しました。

「医療の安全対策と医薬品情報」のテーマのもとに2日間にわたり8人の先生からホットな話題についてご講演いただきました。

(プログラム参照)初日は127名、2日目は80名の方々が熱心に聴講されました。ご参加くださいました会員の皆様に御礼申し上げます。アンケート結果では90%以上の方から内容に



ついて、満足した、勉強になったとの回答をいただきました。特に重篤副作用疾患別対応マニュアルからの解説は好評で今後も継続してほしいとのお声を多数頂戴いたしました。アンケートと併せて今後の企画の参考にさせていただきます。

### 1日目 3月8日(火)

医薬品の安全対策と最近の話題

(厚生労働省医薬食品局安全対策課 広瀬 誠 先生)

製薬企業と医薬品の安全対策

(日本製薬団体連合会 高橋 千代美 先生)

副作用の報告と評価

(東京大学大学院薬剤疫学講座 久保田 潔 先生)

重篤副作用疾患別対応マニュアル/ネフローゼ症候群

(千葉大学大学院薬学研究院 上田 志朗 先生)

### 2日目 3月9日(水)

医薬品医療機器総合機構における安全対策

(医薬品医療機器総合機構 池田 三恵 先生)

がん専門薬剤師の活動

(国立病院機構三重中央医療センター 間瀬 広樹 先生)

薬剤イベントモニタリング

(日本薬剤師会 粟野 信子 先生)

重篤副作用疾患別対応マニュアル/高血糖

(東京女子医科大学 佐倉 宏 先生)

### 参加記

## 「災害対策と医薬品安全対策に共通性」

埼玉県保健医療部薬務課 薬事相談員 松垣 理恵子 (Matsugaki Rieko)

私は埼玉県保健医療部薬務課で薬剤師の立場で薬事相談員をしています。私が所属する献血・温泉・薬事情報担当は薬事相談の他に献血推進、温泉関係の許可・監視の仕事をしております。私は主に県民の方からの薬に関する相談を電話で受けています。最近は相談に要する時間も長くなり、1件に1時間以上かかることもあります。また

薬に関する相談だけでなく健康や医療機関に関する相談など多岐にわたり、年間約1,200件の相談があります。薬に関する質問にわかりやすく答えるためには薬の幅広い知識が必要とされるので、今回この医薬講座に参加させていただきました。1日目のみの受講でしたがどの講演も非常に有益でした。

重篤副作用では症例に基づいた検査値や副作用発現の経過解説はわかりやすく相談業務に直結し直ぐに役立つ内容でした。

医薬品の安全対策と最近の話題では市販直後調査の重要性と、副作用対策を医療現場で確実にを行う事の重要性を再認識しました。「使用上の注意」の改訂がいち早く届く部署にいますので、この立場を生かして最新の情報を薬事相談に活用していきたいと思います。

ファーマコビジランスは薬の全過程の評価から副作用対策までを見据えた安全対策で、これからの医薬品安全対策に有効な取り組みと感じました。患者さんからの直接の副作用報告システムの運用が始まることは、日頃相談を受けている者として非常に必要な事と感じていたのでこのシステムの活用が大変期待しています。薬害再発防止検討委員会の最終提言は薬害肝炎患者さんが委

員に参加され2年間の検討の結果作成されたものですが、医薬行政や企業への基本精神の提言が示された非常に重要な内容であり、今後医療に関わる多くの分野で重要視されていくものと思いました。

先般の東日本大震災では、福島原発の事故も起き大きな災害がもたらされました。被災後の刻々と変わる事態に様々な対策が次々と取られていますが、随所で情報の迅速性と正確性が求められております。また対策実施後も状況に応じ追加対策が必要となる場合もあり、その対応は医薬品の安全対策と非常に共通性があることに驚きました。一日も早い災害の復旧と事態の終息を望んでいます。

おわりに、ご講演いただきました演者の先生方をはじめご準備いただきましたJAPICの皆様へ深く感謝申し上げます。

## 参加記

### サノフィ・アベンティス株式会社 メディカル・アフェアズ本部 浅野 寛実 (Asano Hiromi)

今回初めてJAPIC医薬情報講座に参加させていただくことになり、初めてなのに懐かしい気持ちで会場に向かいました。というのも今回の会場が長井記念館だったからです。いつの間にか月日は経ってしまっていますが、大学4年次に薬剤師の国家試験の冬期直前講習にせせと通っていた懐かしい場所だからです。いつも出来が悪い学生でしたが、こうして社会人となってまたこのような研修を受けられることをとても楽しく思い、意義ある時間を過ごさせていただきました。

私は、現在サノフィ・アベンティス株式会社のコールセンターくすり相談室に所属し、主に医師、薬剤師等の医療従事者、患者さん等からの問い合わせ対応に従事しています。サノフィ・アベンティスは糖尿病、血栓・循環器、内科、オンコロジー領域と幅広い領域の薬剤を取り扱う製薬会社であることから製品数も多く、幅広い知識と、日々のタイムリーな情報収集が求められます。今回の講義の中でも話がありましたが、ネットをはじめ、患者さんも薬剤の知識を容易に習得できるようになったと同時に、患者さん自らが副作用報告等をするシステムも導入されるな

ど、医療環境が大きく変化してきていることを実感します。

医療現場の過酷さを背景に、特に患者さんからの問い合わせに苦慮することも多くなっています。そのようなこともあり、今回実際の臨床的な観点から具体的なお話があった千葉大学の上田先生のお話が特に興味深く、様々な症例を挙げていただいた中で、慢性腎不全の患者さんは高Mg血症の懸念があり、このような患者さんには他のドクターに掛かる時にも「Mg値を計ってもらうように」と指導される必要があるとのことのお話に、非常に心を打たれました。Mg値は通常計測されないため、高齢者の便秘などの対応で知らず知らずのうちにMgが蓄積していく危険性があること、特に一人暮らしの高齢者の増加を背景に今後このような注意を心がけていくことが重要になるとのことでした。このように患者さんと向き合い、「一緒に治療しよう」とする姿勢がやはり患者さんの安心と信頼に結びつき、医療従事者や、私共製薬メーカーも、より良い情報、サービスの提供につながると思われれます。今後もまたこのような講座に参加し、自身の知識の充実に役立てることにより、医療に貢献していきたいと思っています。



# 薬剤師の現場

## 在宅医療にとっての薬剤師 —地域で頼られる薬剤師に



浜松市薬剤師会 理事・薬局フォーリア  
曾布川 美登理 (Sobukawa Midori)

### <在宅医療への道>

薬剤師にとっての在宅医療、これは居宅療養管理指導・訪問薬剤管理指導を行うことがほとんどだと思います。

現在の私は、この居宅療養管理指導をいかに一般のかたに理解していただくか、もっとこの指導を広めて、薬剤師がとって皆様役に立つのですと知っていただきたいと活動しております。

最初に、私がこうした活動に関わった経緯を説明させていただきます。

まずは、介護保険元年の平成12年。「介護支援専門員いわゆるケアマネージャーなるものができるそう、それは薬剤師も受験資格があるそう、なんだかよくわからないけど介護保険には必要な資格らしい…」多分こんな不純な理由でケアマネの資格を取得した人は私だけではないと思います。無事、資格取得しましたが、薬剤師業をやりながらできるほど、やさしい仕事ではないことだけはわかり、しばらくは遠ざかっていました。薬剤師でケアマネを取得したものがターゲットになり、薬剤師会からの推薦で介護保険の認定審査委員になりました。少しは介護保険について知っているだろうと、いうわけです。ずるずると委員を3期。別にどうということなく…過ぎていきました。なにがきっかけになるかわかりません。ちょっとしたきっかけで薬剤師会の理事に就任することになりました。そのとき理事は必ず委員会をもたされます。私には、(やっぱり)ケアマネ持ってるし…で、在宅介護委員会を担当することとなりました。まあ、これが運のツキ、いえ運命というのでしょうか。

それと、委員のメンバーに加えた私と同世代の女性薬剤師、彼女がまた運命、なのです。この数年は彼女と

いっしょに在宅医療への道を突き進むことになります。

### <薬剤師会での活動>

県の薬剤師会でも二人は介護保険委員会のメンバーになっていました。そこで、全国的に活躍している人たちの活動のことを聞き直接そこへ行き、話を聞く機会も与えてもらいました。そのひとつが、長崎のPネットです。

先述の彼女とともに、長崎の薬剤師の先生がたに話をきくことができました。やはりまた同世代の女性薬剤師といろいろ話がきけて、意気投合。3人で盛り上がり、浜松でもPネットをつくらー!と。

### <P浜ねっと>

長崎のはPネット、では浜松は…と考えP浜ねっとだと命名。ここで、P浜ねっとってどんなものなのか説明させていただきます。

#### ★浜松市薬剤師会HPより

##### \*\*創設の目的\*\*

今後も在宅療養を希望する患者が増加することが予想され、薬剤師の立場にあっても医療の質を維持向上させて行く為に、幾ばくかの役割を担う必要性を感じています。しかしながら、そんな中で保険薬局薬剤師の対応は未だ遅れを取っており、患者やスタッフの皆様の信頼を得られているとは言い難い状況です。こうした様子に危機感と責任を感じ、浜松市薬剤師会では、“力を合わせれば一人薬剤師でも訪問指導に行ける”を目標に浜松市薬剤師会在宅支援ネット(通称:P浜ねっと)を作りました。



ネットワークを作ることで、各薬局が在宅に取り組む際に、さまざまな負担が一度に集中したとしても、お互いが協力し合いながら在宅医療活動を無理なく継続していける。また、患者さんや開業医の先生方、看護師さん、ケアマネさんなど在宅にかかわる全ての人と連携をとることで、私たち薬剤師がお役にたてるとともに、情報を共有することで薬剤師としてもレベルアップを図っていけることとおもっております。

#### \*\*活動の目的\*\*

- 1) 訪問薬剤（居宅療養）管理指導等を行うことによりグループとして在宅医療の受け皿となる。また他の医療スタッフによる患者への説明等の手間も省け、薬剤に対する理解も深まり、デリバリーについても患者や御家族の負担が軽減する。（在宅への薬剤の配達、管理、指導の分野を担当）また、グループ内の連携により緊急時の対応を行う。
- 2) 薬薬連携を組み、患者に対し可能な限り継続的で効果的な在宅医療を提供する。
- 3) 薬局相互に薬剤管理上の相談を行い、さまざまな医療情報、医薬品情報を共有することにより医療の質の向上を目指す。

#### \*\*活動方法・内容\*\*

- 1) 訪問薬剤（居宅療養）管理指導を依頼する患者の退院時カンファレンスへの参加（退院時共同指導）
- 2) メーリングリストを活用した情報の交換
- 3) 会員薬剤師の知識・技術向上のための研修会（毎月一回のペースを目標に）
- 4) 学会等への研究内容の発表と業績報告（今後の目標として）
- 5) 在宅医療活動スタッフ（医師、看護師等）への医薬品情報提供

#### <居宅療養薬剤管理指導>

医療保険では、訪問薬剤管理指導といいますが、この制度を駆使しているのは薬剤師のなかでも、保険薬局で仕事をしている薬剤師でも一部です。（残念なことに…）ほんとに残念なんです。せっかくの薬剤師の職域を広げる最適な場なんですから。

昨今、インターネットの医薬品販売、ドラッグストアのポイント制度導入とか、薬剤師にとっての危機です。薬剤師不在で買える医薬品、安ければいい薬局、それに調剤マシンの進歩、薬剤師なんていなくても世の中なんとかなるよ、って状態になるのは、悲しいです。

薬剤師が在宅医療に加わることによって介護の質が上がるってくれた医師もいます。こんな声をもっとただけのように、私たちは努力していかなければいけないと思っています。

#### <お薬出前講座>

介護・福祉職についている方々は、薬についての知識も乏しいのに、患者さんは薬を服用している人たちがほとんどです。薬について質問されたらどうしたらいいのかという不安があります。この不安を解消すべく介護職の人たちを対象にお薬についての基本的な話、それに薬剤師がいかに関与するかを職場等に出向いて（出前です）お話しします。薬剤師ができること、やっていることを一般の方にもわかってほしいとの思いから、こんな活動もしています。ケアマネさん、ヘルパーさん等介護の現場で働いている人たちは、薬でわからないことがあったら薬剤師さんに聞けばいいんだ！と頼ってくれるようになります。あたりまえだと思われるかもしれませんが意外と薬剤師は遠い存在で、ほとんど薬のことは看護師さんが対応しているのです。もっと介護の現場に入っていき多職種のみなさんと顔の見える関係をつくっていくことが、薬剤師の存在感を大きくすることだと考えます。

浜松市薬剤師会在宅支援ネット（P浜ねっと）は立ち上げたばかりですが、これから在宅医療に対して意欲を持った薬剤師が増えていくことと思います。6年制の薬学実習生もとても興味を示していました。浜松市を中心とした患者の皆さんの快適な療養のために少しでもお役に立てるよう精一杯努力していきたいと考えています。我々は、訪問薬剤（居宅療養）管理指導等の活動とともに、地域医療ネットワークの中で必要とされる薬剤師をめざしてがんばっていきます。

# しごと 百景

## 入社4年目を迎えて

株式会社三和化学研究所  
安全情報管理部 田渕 理 (Tabuchi Osamu)



初めまして。三和化学研究所の田渕です。2011年4月で入社4年目となりました。会社ではPMS部門である安全情報管理部に所属しております。主な担当業務は添付文書の使用上の注意改訂に伴う情報伝達業務と部署内のシステム関連業務です。文章を書くことは苦手ですが、このたび執筆の機会を頂きましたので、製薬企業の若手としての仕事内容や仕事を通して感じたこと、プライベートについてお話させていただきます。(27歳ですが、まだまだ若手だと思ってます!!) 少しの間お付き合いください。

(株)三和化学研究所は、「どえりゃ〜…ですわ!!」で有名な河村たかし氏が市長を務める名古屋市東区に本社を置く製薬企業です。糖尿病および糖尿病周辺領域を主とした医薬品・診断薬などの研究開発と製造販売を行っており、「糖尿病治療のベストパートナー企業」を目指しています。

私が入社したのは2008年4月です。この年の8月に北京オリンピックが盛大に開催されたのは記憶に新しいところです。大学時代は物理学を専攻しており、薬学に関しては全くの無知でした。したがって、正直なところ、就職活動時は「三和化学研究所」という会社名から、「化学メーカーなのかな?」、PMS部門に内定を頂いた時は、「何をやる部門なのかな?」と思いました。製薬企業と言えば、研究職やMR職と思っていましたので、入社後の業務内容に不安を抱えながら2008年4月1日を迎えたのを覚えています。やはり就職活動では事業内容や仕事内容の細かなところまで情報収集することが大変重要であると今更ながら思います(笑)。初めにも書きましたが、入社してからの主な担当業務は、添付文書の使用上の注意改訂に伴う情報伝達業務と副作用データベースの管理等を含む部署内のシステム関連業務です。この2つについて紹介させていただきます。

1つ目の情報伝達業務について、これまで3年間担当してきましたが大変興味深く面白業務であると思いましたが、最近、ジェネリック(後発医薬品)が活気づいていますが、先発医薬品と後発医薬品で情報伝達の始まりが大きく違ってきます。先発医薬品の情報伝達は、副作用が収集され、社内で評価・検討されます。この評価・検討結果を基に医薬品医療機器総合機構へ添付文書改訂の相談へ行き、改訂内容が確定、情報伝達へと進んでいきます。これに対して後発医薬品の情報伝達は、製造販売承認を有している製品の場合には先発医薬品企業から、取扱い製品の場合には製造販売元企業から改訂情報の連絡があり、それぞれ情報伝達の準備を始めていきます。実際の業務内容は、「お知らせ文書」と呼ばれている使用上の注意改訂のお知らせや社内資料の作成、情報伝達対象施設リストの作成、医療機関へのダイレクトメール発送の準備、情報伝達実施計画書・指示書の作成等があります。この他にも提携会社や添付文書の作成を行っている社内関連部署とのやり取りがあります。多くの作業が同時並行で動くために焦ることもありますが、大きなやりがいを得られることが情報伝達の魅力であると思います。

使用上の注意改訂の中には国内外の文献を基に改訂を行うことが多々あります。この時の文献検索でJAPICのiyakuSearchに大変お世話になっています。iyakuSearchはキーワード検索もしやすく、絶対に検索できないと思いながらキーワードを入力してみると希望した文献がヒットするので驚きです。

2つ目は、部署内のシステム関連業務です。2010年4月に副作用情報等の収集から報告、保管までの一元管理を目的とした安全性情報管理システムを導入しました。導入に最初から関わることで普段担当していない収集や

評価、検討などを見ることができ、PMS業務全般を見ることができたと同時に、担当業務以外の部分についても積極的に学ぶ必要性を感じました。

当初はパッケージされたシステムを単に導入するだけと考えていましたが、導入作業が進んでいくに従ってシステム導入の難しさが身にしみてわかりました。業務に合ったシステムのカスタマイズ、旧システムからデータを移行することに伴うデータクリーニング等々、そしてCSVの実施と作業は膨大な量です。主に担当していたのはCSV。Computerized System Validationの略であり、コンピュータ化したシステムやそのシステムから得られたデータの信頼性を確保するために行う作業です。GMPやGQPでは良く聞く言葉かもしれませんが、GVP、GPSPでは馴染みが薄いのではないのでしょうか。ただし今後は、どのような分野であろうとコンピュータを使用した作業はCSVをすることが当たり前になってくると思います。厚生労働省は、2010年10月21日「医薬品・医薬部外品製造販売業者等におけるコンピュータ化システム適正管理ガイドライン」を発出しました。このガイドラインは主にGMPとGQPが対象ですが、近い将来にはGVP、GPSP等を含むGXP全体に発展していくことが予想されます。周囲の話を聞いていると、どのように対応していくか四苦八苦している企業が多いことがわかります。例に漏れず、弊社も四苦八苦していますが…。こういう業界全体で悩んでいる部分について、情報交換や協力できる場があれば良いと心から思います。

ここまで主な担当業務2つについてお話しさせていただきましたが、3年間のPMS業務を通じて強く感じたことは「初心忘るべからず」。入社した当時は「医療関係者の方々や患者さまのことをしっかり考えて仕事をしよう」と緊張感を持って仕事をしていました。しかし、仕事にも慣れ、余裕が出てくると自分でも知らないうちに緊張感が無くなっていったように思います。そのような中で2009年の夏、教訓となる出来事を経験しました。ある製品の情報伝達について、様々な事情で対応時期を遅らせていました。そのことについて医療関係者の方から「なぜもっと早く連絡しないんだ！患者の命がかかっているんだぞ。」ときついお叱りを受けたのです。命に関わる問題ですから、こちらの都合ではなく相手のことを考えた対応をすべきでした。医療関係者の方や服用されている患者さま、そしてMRの方々に多大な迷惑をかけてしまったことを深く反省しました。日常業務では患者さまの顔を直接見ることはありませんが、全てのPMS業務の先には患

者さまがいることを再確認しました。最近は少し怠けた気持ちが出てくると、この出来事を思い返すようにしています。

最後に、仕事で溜まったストレスを発散しているプライベートについてです。学生時代は塾講師のアルバイトに明け暮れ（アルバイトの身でしたが最終的には数学科の主任になっていました（笑））、趣味の時間というものほとんど持っていませんでしたが、入社をきっかけに様々なことに挑戦するようになりました。現在の趣味は料理です。料理を始めたきっかけは3つ。①1人暮らしで自炊をするため。②入社前の体重が100kg近くあり、健康管理のため（現在の体重は70kg）。③料理が出来る男性はカッコいいと思ったため。特に②に関しては、入社後の健康診断結果で多くの項目に黄色信号が灯っており、「糖尿病のベストパートナー企業」を目指す社に入社しながらこの結果はマズいと焦ったことを覚えています。最初はこのような理由から始めましたが、いつの間にかのめり込み、料理教室にも通い始めて本格的な趣味になっていました。料理をしていると自分の色々な部分が見えてきます。例えば、野菜の切り方にも個性が出てきます。私は血液型がA型で几帳面そうと言われることが多いのですが、野菜を切っていると色々な形や長さになっていることがあり、大雑把な一面が出てきます。現在は友人を家に招き、手料理を振舞っていますが、いつの日か、奥さんに手料理を振舞うことができる素敵な旦那になることを夢見て腕を磨き続けたいと思います。

ここまで長い文章にお付き合い頂きましてありがとうございます。「情報伝達ってこんなことやっていたのか」、「システム導入って意外とやることがあるのだな」、「料理に挑戦してみようかな」と少しでも皆様の動機づけのお役に立てれば幸いです。この場をお借りして執筆の機会を与えてくださいましたJAPICの担当者様に心から御礼申し上げます。

執筆依頼が3月8日、9日に開催されましたJAPIC医薬情報講座の参加時でしたが、この2日後の3月11日に東日本大震災が発生し、多くの方々の尊い命が失われました。被害にあわれた全ての皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。



# 会員の声

## JAPIC医薬情報スタッフの方々に感謝

共立製薬株式会社 医薬本部医薬開発部

菊池 昌弘 (Kikuchi Masahiro)

共立製薬株式会社は昭和30年(1955年)5月に設立された、東京都千代田区九段南に本社を有する企業です。「人と動物と環境の共生をになう」を経営理念とし、医療用医薬品の他、伴侶動物用医薬品、農水産動物用医薬品、環境衛生関連を4つの柱として事業を展開しています。医療用については少子・高齢化社会に貢献することをスローガンに掲げて、不妊症治療薬、切迫早産治療薬と骨粗鬆症薬を製造販売しております。

私は薬学部を卒業して以来、医薬品企業に勤務し、開発・薬事、企画、導入および信頼性保証業務など、幅広く従事してまいりました。現在の業務において、JAPICは、何といても信頼性保証業務における安全管理情報と品質情報の情報源として欠かせない存在になっておりまして、SDIサービスとして「JAPIC-Qサービス」を利用しております。さらに、当社が製造販売する品目のなかには、生物由来製品もございますので、化学合成品に比してなお一層の注意を払う必要があり、「JAPIC-Q plusサービス」も利用させていただいております。

これらのサービスを利用して入手した情報の管理ですが、当社ではすべて「紙」ベースでの管理をしています。皆様からみれば「不思議」と思われるかもしれませんが、当社の製造販売する医療用医薬品の品目数が少ないこ

とも理由としてあげられますが、IT技術が発達している今日この頃でもなお「紙」ベースでの保管から脱却しない最大の理由(?)は、「生物由来製品に規定される記録の保管期限がかなり長期にわたるため、保存期限内にパソコンやメディアが破損してデータの参照ができなくなるのではないかと一抹の不安があるからです。皆様の会社ではどのような保管方法をとられておりますでしょうか?

ところで、医薬品企業の安全管理業務に従事している者の立場からすれば、JAPICに自社製品に関するSDIサービスを申し込みさえすれば、毎週タイムリーに医薬情報が提供されてまいりますが、JAPICにおいて医薬情報を入手し、検討し、分類するスタッフの方々の労力はどれくらい必要であるかとふと疑問に思ったことがございます。医療用医薬品は日本国内に限定しても、その売上は薬価ベースで約9兆円と言われ、学会報告や学会誌などからかなりの量の文献が収集されると思いますが、これらの内容をレビューし、どの医薬品にかかわるものかを判断する、物凄い量の労力と推察されます。これらの業務を期限内に正確にこなすには、JAPICスタッフの方々の毎日の地味な努力の積み重ねがあると推察しております。この場を借りてJAPICの医薬情報スタッフの方々に感謝申し上げます。

さて、私は車を利用した旅行が大好きで、よく出かけるのですが、東京から300キロ圏内までを目的地として「日帰り」または「1泊」の日程です。春は「さくら」、秋は「もみじ」そして、冬は「温泉」をテーマにしています。群馬県のJR吾妻線の車窓からの吾妻渓谷の「もみじ」はとてもきれいです。このJR吾妻線沿線には、「草津温泉」をはじめ、万座温泉、鹿沢温泉、川原湯温泉や四万温泉などたくさんの温泉があります。健康である限り、趣味も仕事も継続していきたいと思っております。



# JAPIC新入職員紹介



医薬文献情報（国内）担当  
**山田 哲史**  
(Yamada Akifumi)

2011年3月に明治薬科大学薬学部生命創薬科学科を卒業しました。千葉県我孫子市から通っています。就職活動を通じてJAPICと出会い、ここで働きたいという1つの目標が叶いと嬉しく思っています。

スポーツが好きで、特に野球とサッカーが大好きです。やる方ももちろん好きですが、スタジアムの独特な雰囲気も好きでよく観戦しに行きます。また、最近ゴルフも始め、打ちっぱなしに通っています。石川遼君のような爽やかなプレイヤーを目指していきたいと思えます。渋谷という大都会に慣れずに戸惑っている、まだ右も左もわからない社会人1年生ではありますが、1日も早くお力になれるよう精一杯頑張りたいと思えますので、ご指導ご鞭撻のほど、宜しく願いいたします。



添付文書情報担当  
**深澤 ちさと**  
(Fukazawa Chisato)

4月よりJAPICでお世話になっております。私はもともと薬学を学びたいという気持ちがあり、山形大学理学部物質生命化学科を卒業後、東北大学大学院薬学研究科に進学しました。大学院では制がん剤の副作用の作用機序の解明を目指し研究に励んでいました。研究を行う中で、制がん剤が抗腫瘍効果というメリットを与える一方で、リスクとなる副作用をもたらす、さらにその原因が不明瞭なままであるという現状に不安を感じていました。しかしながら、副作用の原因を解明するには多くの時間と労力が必要とされます。それゆえに過去に起こった副作用の情報を迅速に提供し、医薬品の安全性の向上に努めるJAPICの事業が重要であると感じました。JAPICの仕事は色々な医薬品について知ることができるというのも魅力の一つです。医薬品について学ばせて頂いているというつもりで、今後も頑張ります。色々と至らない点があると思いますが、今後ともよろしく願いいたします。



医薬文献情報（国内）担当  
**田中 純**  
(Tanaka Jun)

3月に慶應義塾大学大学院薬学研究科を修了しました。大学院では薬物動態学を専攻し「妊娠時の胎盤において母体から胎児への抗HIV薬輸送を制御するトランスポーターの研究」を行ってまいりました。カエルを用いていたため、今ではすっかりカエルに愛着が湧いています。研究を進めていく中で、実験技術だけではなく、数多くある情報の中から必要な情報を取捨選択することの難しさを学びました。また添付文書やIFなどの医薬品情報に触れる機会も多くありました。このような経験から情報を扱う仕事に興味を持ち現在に至ります。趣味はお菓子作りで、食べることも大好きです。特にグミが好きで、新製品がないか毎日チェックするほどです。まだまだ至らない点ばかりですが、業務を早く覚え戦力になれるよう努力いたしますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



医薬文献情報（海外）担当  
**村田 智**  
(Murata Tomo)

4月よりJAPICの一員となることができました。星薬科大学卒業です。物理化学系の研究室でしたが、残念ながら卒論の内容はよく覚えていません。幸運にも気付いたら卒論ができていたタイプです。卒業後は卸で管理薬剤師として働いていました。自分の親ほどの年齢の営業と大喧嘩したりと苦労も多かったですが、たくさんの商品を扱い、薬局・病院・製薬会社等様々な業種が関わる流通現場にいたことは良い経験になったと思っています。

これからはそれらの経験を活かしJAPICで力を発揮できるようにがんばっていきたくと思っています。よろしく願いいたします。

# 外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より – (抜粋)

2010年3月1日～3月31日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No.294-298)の記事から抜粋

## ■米FDA

- Abacavirに関する進行中の安全性評価：心臓発作リスク上昇の可能性について  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm245190.htm>>
- プロトンポンプ阻害剤 (PPIs) の Drug Safety Communication：マグネシウム濃度低下と長期使用が関連している可能性について  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm245275.htm>>
- Topamax (topiramate) の表示変更：新生児における口唇裂および/または口蓋裂リスクについて  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm245777.htm>>
- Letairis (ambrisentan) 錠の肝障害に関する警告を削除  
<<http://www.fda.gov/NewsEvents/Newsroom/PressAnnouncements/ucm245848.htm>>
- Kaletra (lopinavir/ritonavir) の表示変更：早産児における重篤な健康障害  
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/SafetyInformation/SafetyAlertsforHumanMedicalProducts/ucm246167.htm>>
- Vivaglobin (Immune Globulin皮下投与剤) の皮下投与または静脈内投与 (不適切な使用) による血栓性有害事象リスクに関する Important Safety Information  
<<http://www.fda.gov/BiologicsBloodVaccines/SafetyAvailability/ucm246863.htm>>
- 医薬品製造業者への注意喚起：特定の注射剤におけるガラスメラの形成  
<<http://www.fda.gov/Drugs/DrugSafety/ucm248490.htm>>

## ■米CDC

- Opioid鎮痛薬はいくつかの先天性欠損リスク上昇と関連している  
<[http://www.cdc.gov/media/releases/2011/p0302\\_opioidbirthdefects.html](http://www.cdc.gov/media/releases/2011/p0302_opioidbirthdefects.html)>

## ■Health Canada

- 献血の延期に関する指針を既存の英国および西欧の他にも拡大：変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 (vCJD) の可能性例が新たに検査診断されたことを受けて  
<[http://www.hc-sc.gc.ca/ahec-asc/media/advisories-avis/\\_2011/2011\\_51-eng.php](http://www.hc-sc.gc.ca/ahec-asc/media/advisories-avis/_2011/2011_51-eng.php)>

## ■EU・EMA

- European Medicines Agency・CHMPの3月会合 (2011年3月14日-17日開催) の記者発表：pioglitazone含有医薬品、Revlimid (lenalidomide) などのレビュー開始について  
<[http://www.ema.europa.eu/docs/en\\_GB/document\\_library/Press\\_release/2011/03/WC500103887.pdf](http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Press_release/2011/03/WC500103887.pdf)>

## ■独BfArM

- ZERIT (stavudin (stavudine)) の Rote-Hand-Brief：適応の制限について  
<[http://www.bfarm.de/cln\\_094/DE/Pharmakovigilanz/risikoinfo/2011/rhb-zerit.html](http://www.bfarm.de/cln_094/DE/Pharmakovigilanz/risikoinfo/2011/rhb-zerit.html)>
- Instituts für Rundfunktechnik GmbHが行った植込み型心臓ペースメーカーの電磁波の干渉に関する研究について  
<[http://www.bfarm.de/cln\\_094/DE/Medizinprodukte/risikoinfo/wissauf/EMV-Studie\\_Herzschrmmacher.html](http://www.bfarm.de/cln_094/DE/Medizinprodukte/risikoinfo/wissauf/EMV-Studie_Herzschrmmacher.html)>
- Modafinil含有医薬品：ガイドライン2001/83/EGのArt. 31に基づくリスク評価 (最新情報)  
<<http://www.bfarm.de/DE/Pharmakovigilanz/stufenplanverf/Liste/stp-modafinil.html>>
- Topiramate (Topiramate)：先天性奇形リスクに関するデータ  
<<http://www.bfarm.de/DE/Pharmakovigilanz/risikoinfo/2011/topiramate.html>>
- Fluorchinolone：QT間隔延長リスクに関する協議  
<<http://www.bfarm.de/DE/Pharmakovigilanz/stufenplanverf/Liste/stp-fluorchinolone.html>>
- Statine (Statins)：睡眠障害、記憶喪失、性功能不全、抑うつ、間質性肺疾患がclass effectである可能性について  
<<http://www.bfarm.de/DE/Pharmakovigilanz/stufenplanverf/Liste/stp-statine.html>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報 (海外) 担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料) もしくはJAPIC WEEKLY NEWS (無料) のサービスをご利用ください (JAPICホームページのサービス紹介：<<http://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供を御希望の医療機関・大学の方は、事務局業務・渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。



### 【新着資料案内 平成23年3月9日～平成23年3月31日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越し下さい。

〈配列は書名のアルファベット順〉

| 書名                                    | 著編者                  | 出版者                             | 出版年月     |
|---------------------------------------|----------------------|---------------------------------|----------|
| 治療薬マニュアル 2011                         | 北原光夫 他編              | 医学書院                            | 2011年2月  |
| 医学用語シソーラス 第7版 2011                    | 医学中央雑誌刊行会            | 医学中央雑誌刊行会                       | 2011年1月  |
| 医療機器承認便覧 平成22年版                       |                      | 薬務公報社                           | 2010年10月 |
| 医薬品情報学                                | 栄田敏之、橋詰 勉 編          | 廣川書店                            | 2011年1月  |
| 医薬品承認申請ガイドブック2010-11                  | 日本薬剤師研修センター 編        | 薬事日報社                           | 2010年12月 |
| JAPIC医療用医薬品集 普及新版 2011                | 日本医薬情報センター 編         | 日本医薬情報センター                      | 2011年3月  |
| MIMS Annual 2010 (Australian Edition) | Elizabeth Donohoo    | CMPMedica Australia Pty Limited | 2010年6月  |
| 日本の医薬品構造式集 2011                       | 日本医薬情報センター 編         | 日本医薬情報センター                      | 2010年4月  |
| ポケット版 臨床医薬品集 2011                     | 星 恵子 編               | 薬事日報社                           | 2011年3月  |
| 産婦人科診療ガイドライン-婦人科外来編2011               | 日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会 編 | 日本産科婦人科学会                       | 2011年2月  |
| 子宮収縮薬による陣痛誘発・陣痛促進に際しての留意点 改訂2011年版    | 産婦人科診療ガイドライン産科編編集委員会 | 日本産科婦人科学会                       | 2011年4月  |
| ViDAL 2011 Le dictionnaire 87ed       |                      | Vidal                           | 2010年1月  |
| 薬物乱用・中毒百科 覚醒剤から咳止めまで                  | 内藤裕史 著               | 丸善                              | 2011年1月  |
| 薬剤識別コード事典平成23年改訂版                     | 医薬ジャーナル社編集部 編        | 医薬ジャーナル社                        | 2011年2月  |

## 情報提供一覧

### 【平成23年4月1日～4月30日提供】

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせ下さい。

| 情報提供一覧  | 発行日等      | JAPIC作成の医薬品情報データベース              | 更新日   |
|---|-----------|----------------------------------|---|
| 〈出版物・CD-ROM等〉   |           | 〈iyakuSearch〉 Free               | <a href="http://database.japic.or.jp/">http://database.japic.or.jp/</a>                 |
| 1. [JAPIC Pharma Report-海外医薬情報]                                     | 4月1日      | 1. 医薬文献情報                        | 月 1 回   |
| 2. [Regulations View Web版] No.212-213                               | 4月15日・28日 | 2. 学会演題情報                        | 月 1 回   |
| 3. [添付文書入手一覧] 2011年3月分 (HP定期更新情報掲載)                                 | 4月1日      | 3. 医療用医薬品添付文書情報                  | 毎 週   |
| 4. 医療用・一般用医薬品集インストール版 (CD-ROM)                                      | 4月27日     | 4. 一般用医薬品添付文書情報                  | 月 1 回   |
| 5. OTC医薬品インストール版 (CD-ROM)   | 4月27日     | 5. 臨床試験情報                        | 随 時   |
| 6. [JAPIC NEWS] No.325 5月号  | 4月27日     | 6. 日本の新薬                         | 随 時   |
| 7. [JAPIC医療用医薬品集2011] 更新情報2011年4月版                                  | 4月28日     | 7. 学会開催情報                        | 月 2 回   |
| 〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (FAX、郵送、電子メール等で提供)                         |           | 8. 医薬品類似名称検索                     | 随 時   |
| 1. [JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報] No.778-781 (旧: 医薬関連情報速報FAXサービス)    | 毎 週       | 9. 効能効果の対応標準病名                   | 月 1 回   |
| 2. [医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)]                                  | 毎 週       | 〈iyakuSearchPlus〉                | <a href="http://database.japic.or.jp/nw/index">http://database.japic.or.jp/nw/index</a> |
| 3. [JAPIC-Q Plusサービス]   | 毎月第一水曜日   | 1. 医薬文献情報プラス                     | 月 1 回   |
| 4. [外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)] No.2403-2422 | 毎 日       | 2. 学会演題情報プラス                     | 月 1 回   |
| 5. JAPIC Weekly News No.298-301                                     | 毎週木曜日     | 3. JAPIC Daily Mail DB           | 毎 日   |
| 6. [感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)] No.386-389                       | 毎週月曜日     | 4. Regulations View DB (要:ID/PW) | 月 2 回   |
| 7. [PubMed代行検索サービス]   | 毎月第一・三水曜日 | 外部機関から提供しているJAPICデータベース          |   |
| 8. [JAPIC医療用医薬品集2011] 更新情報Mail 2011年3月版                             | 毎月10日     | 〈JIP e-infoStreamから提供〉           | <a href="https://e-infostream.com/">https://e-infostream.com/</a>                       |
|   |           | 〈JST JDream II から提供〉             | <a href="http://pr.jst.go.jp/jdream2/">http://pr.jst.go.jp/jdream2/</a>                 |

# 医療用医薬品集

## 普及新版2011

2011年  
3月発行



本書は「JAPIC医療用医薬品集(B5判 約3,400頁)」をもとに臨床の場で利用される際に必要な項目を選択し、取り扱いやすく、持ち運びに便利なちょっと大きめのポケットサイズ(A5判)に再構成したものです。成分ごとに添付文書記載の効能・効果、用法・用量、禁忌、警告、使用上の注意等、及び半減期情報等を記載。

約2,100成分、約17,000製品の医療用医薬品情報を2011年1月時点の最新情報で収録。

### ■掲載内容

- ◎一般名、製品名
- ◎承認日(一部製品)
- ◎組成(規格)
- ◎効能・効果、用法・用量
- ◎警告
- ◎禁忌、原則禁忌
- ◎慎重投与
- ◎重要な基本的注意
- ◎相互作用(併用禁忌・併用注意)
- ◎副作用
- ◎高齢者への投与
- ◎妊婦・産婦・授乳婦等
- ◎小児への投与
- ◎臨床検査結果に及ぼす影響

価格：**5,040**円(税込)

A5判／約1,500頁

財団法人 日本医薬情報センター **JAPIC** 編集・発行 ☎ 0120-181-276  
丸善出版株式会社 発売 TEL 03-6367-6038

上記書籍の他、電子カルテやオーダリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。

# Garden

ガーデン

このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

## うわみずざくら

桜の仲間だが、房になって咲きだいが印象が違う。新潟県などではこの蕾を杏仁香(あんじんご)と称して、塩漬けにして賞味する。杏仁と同じ香りがするのはやはり、アミグダリンを含み、それが加水分解されるからであろう。新潟県にて(ky)



JAPICホームページより  
<http://www.japic.or.jp/>

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。